

資料3 平成25年度第3回福島県廃炉安全確保県民会議 議長申入に対する回答

東京電力の回答

番号	申入内容	回答
1	<p>工程の進む条件とリスクを付した県民目線でチェックできるような短期ロードマップを作成すること</p>	<p>第3回の県民会議では、廃炉へ向けた全体工程をイメージして頂くとともに、各号機の現状と課題についてご説明させていただきました。</p> <p>現在公表している中長期のロードマップでは、毎月その進捗状況について個別分野毎の検討・実施状況、それらの短期スケジュールについて公表しておりますが、詳細については個々の専門的な説明資料で構成されており、広く一般の方々に理解して頂くには少々難解な内容となっているのが実態です。</p> <p>次回の県民会議では、短期的ロードマップについて各個別分野毎の進捗状況を織り交ぜながら噛み砕いてご説明し、現在抱えている課題やロードマップ全体のスケジュール感をご理解頂けるよう努めて参りたいと考えております。</p>
2	<p>汚染水の量について、どういう施策をすればどのように減少していくのか、また漏洩監視はどのようになされているのか回答してほしい。</p>	<p>汚染水の状況については「福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について」として取り纏め、汚染水や処理水の貯蔵量、タンクによる貯蔵容量などの経過について毎月公表しております。汚染水全体の量としては、地下水の建屋への流入によって貯蔵量は日々増加しているものの、多核種除去設備の処理量が増加してきたことで、濃度の高い汚染水の処理が進みつつあります。</p> <p>一方で、多核種除去設備(ALPS)で処理した水であっても、現状では放出することができないため、全てタンクに貯留することが基本的な方針となります。そのため水全体の貯蔵量は常に増加しており、その増加量を上回るペースで貯蔵タンクを増設している状況にあります。</p> <p>次回県民会議では、汚染水や処理水の貯蔵に関するご説明として「タンク増設計画」に加え、漏えいのリスクが高いフランジタイプからリスクの低い溶接タイプへの更新状況についても合わせてご説明いたします。</p> <p>また、タンクや堰などからの漏えい監視につきましては、昨年9月より強化したタンクパトロールによって1日4回監視を行っております。それに加え、フランジ型タンクに追加設置した水位計の設置が昨年11月に完了し、11月29日より水位計による監視も運用を始めております。さらに、本年2月19日に発生しましたH6エリアタンクからの漏えいに対する対策として、2月21日より上記の通常パトロールに加えて、現場パトロールの強化を図っております。(添付資料)</p> <p>以上の状況を踏まえ、次回の県民会議では、汚染水処理・貯蔵の見直しに関すること、漏えいリスク低減のための監視面などの取り組み状況について、少しでもご安心頂けるよう解りやすい資料でご説明したいと考えております。</p>

資料3 平成25年度第3回福島県廃炉安全確保県民会議 議長申入に対する回答

国(内閣府資源エネルギー庁)の回答

番号	申入内容	回答
1	工程の進む条件とリスクを付した県民目線でチェックできるような短期ロードマップの作成	「東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」は、現場状況や研究開発成果等を踏まえ、適時適切なタイミングで見直しを行っていくこととしています。いただいた御意見については、2月に開催させていただいた廃炉・汚染水対策福島評議会の中でも、中長期ロードマップの第2期において、節目となる工程を設定して欲しいという類似の要望をいただいております。先日(4月14日)開催された第2回の福島評議会において、「中長期ロードマップを次回改訂する際に、第2期の期間や工程について、可能な限り、細分化や具体化を図る」ことを明示しています。